

保育計画成果報告書

法人名等	
施設名	ドレミ 保育園
報告者（役職）	坂田紀子（園長）
住所・連絡先	熊本市東区秋津3丁目14-48
	☎ 096-369-5598
	E-mail doremirizumuhoikuen@yahoo.co.jp

○タイトル（保育計画）

命を守る

○主な助成備品

アンパンマンパラソル、アンパンマン避難車、持ち出し避難バッグ、
殺菌庫

1. 保育計画策定の目的

ドレミ保育園は、0，1，2歳児（定員19名）の小規模保育施設として平成28年8月1日に開園。母体は、認可外保育施設ドレミリズム保育園です。

開園から30周年を迎えたその年に、震度7の大地震に遭遇しました。熊本地震です。

平成28年4月14日に前震、16日に本震。二度の震度7の衝撃。

そして1，000回を超える余震。熊本が壊れました。

前震の後、恐る恐る園舎に入りました。築40年、鉄骨造の柱で建物は建っていました。内部の状況は、プレイルームの天井と横壁が落ちてグランドピアノは元の位置から1.5m動き、ステージにピアノのスタンドが落ちて近づけません。他の場所も同じ。

この状況を呆然としながらも安堵しました。平日の保育中でなかったこと、子ども達は親元にいたことに心から感謝しました。平日であれば、ここに75名の命がありました。震度7、大きく揺れる中で子ども達を守れていただろうか。

本震から1週間、使える一部屋を急いで修復し、震災でも仕事復帰を要する保護者様の要望に応えました。震災の前に行っていた避難訓練は無駄ではなかったが、避難の心構えがとっさにできなかったと思います。熊本地震で震災を体験した今、意識も高まり学ぼうとする気持も強く、0，1，2歳児の命を守るための避難訓練を目指し、目標とします。

2. 具体的な実施内容

・月に2回の避難訓練

①火災避難訓練 ②災害訓練（地震、水害、風害）

・年に1回の保護者様への引き渡し訓練、消防署との合同訓練（通報訓練、消火訓練）

・助成備品

①アンパンマン避難車

0、1歳児を乗車、非常口から10m離れたサッカースタジアムに避難。

<写真1>



<写真2>



②アンパンマンパラソル

グラウンドに設置。シートをパラソルの下に設置（20名可）

<写真3>



<写真4>



③持ち出し避難バッグ（防災セット）

保温アルミシート、水、避難食、その他40種類の用品を訓練に応じて使用。

<写真5>



<写真6>



④殺菌庫

戸外へ持ち出し、発電機を使用しての哺乳瓶・コップなどの殺菌を行い、繰り返し使用が可。

<写真7>



3. その成果と評価

避難訓練をし始めた頃は、泣き出す子どもが多くいましたが、回を増すごとに慣れてきています。0，1，2歳児と年齢も低く、非常ベルに怖がっていました。更に、保育士の笑顔が消え真剣に取り組んでいる顔色に気づき、子どもたちは動揺していました。

保育士は冷静に、いつもとは違うことを表現しながら子どもに伝えなければいけません。保育士のその姿勢を子どもたちは徐々に理解し、スムーズな避難訓練へと繋がっています。

不安を抱えながらも戸外へ出ると、外気に触れて徐々に落ち着きを取り戻します。避難場所で子どもたちの心を癒してくれるのは、大きく開いたパラソルから声をかけるかのように上から覗くアンパンマン・バイキンマン・ドキンちゃん。

子どもたちの喜ぶ声が上がり徐々に豊かな気持ちを取り戻していきます。

<写真8>



<写真9>



<写真10>



<写真11>



4. 今後の課題と展望

現在、乳幼児20名がワンルートを2つに仕切って生活をしています。年齢ごとに保育士（担任）を配置しています。ワンルートでファミリーのような温もりの中に過ごす子どもたちです。担当するクラスだけではなく、全体を見守り、声をかけ合い安全を保つ。個々のアイデアを取り入れて工夫をこらす保育が求められます。

職員全員が、熊本地震を体験した教訓から学び取った『命を守る』。災害を乗り越えた職場だからこそ、心構えと思いやりの心がますます深まっていくことを願っております。

<写真12>



<写真13>



以上